

作成年月日	作成者	承認年月日	承認者

○△農園 農場管理手順書

【経営管理】

1 農場経営方針

- 〇〇の自然と清流を利用し、種まきから収穫出荷に至るまで、丁寧に心を込めて取扱い、消費者の皆様に安心して食べていただける農産物を生産する。
- 法令を遵守、自然環境に配慮、従業員の健康管理、作業の安全対策を徹底し、持続可能な農業経営を目指す。

2 リスク評価

- 農業経営の健全性を確保するため、生産場所、環境保全、食品安全、労働安全など総ての面からリスク評価を行い、改善事項を明確にし、持続可能な農業経営を実行する。
- リスク評価は毎年実施し、対策の効果や改善状況について検証し記録に残す。
- 従業員とリスクの共有を図るとともに、計画、実行、評価、改善を行い経営の健全性を維持する。
- 自然災害が多い中、事故や災害に備えた農業生産の維持対策を決めて記録する。

3 経営計画

- 毎年度、期間開始前に経営方針に基づいた経営計画を策定し、期間終了後の客観的な実績数値を記録し、次期経営計画に反映させる。
- 経営計画策定時に、GH 農場評価活用して農場を点検し、改善部分の把握見直しを行う。
- また、必要に応じて、外部有識者の助言を受ける。

4 各種契約期間及び免許更新期間の確認

- 農地の耕作権契約、各委託契約、販売契約など期限が切れていないか確認し、更新期間満了となるものは必要に応じて契約更新する。

5 事務分掌と担当者

- 経営組織を定め、責任範囲と責任者を明確化し、農場の管理体制を整備する。
- 次の責任者を設置する。

栽培責任者、出荷及び商品管理責任者、クレーム対応責任者

6 文書の保管

- 農場運営のために必要な記録を特定し保存する。保存期間は、法令で規定されるものは法令の期間とし、その他の GAP 取組みの必要な記録は3年間とする。

7 経営資源、人的資源の点検と強化

- 各農業経営に必要な装備の一覧表を作成し毎年見直す。また、経営方針及び経営計画に応じた農場の基本資源を整備する。
- 人的資源については、経営上特に重要なアイテムであり、毎年労使間の話し合いを行い、労働条件、労働環境を改善し、働きやすい職場づくりを実行する。
- 作業者が農場管理に必要な力量を身につけるため計画的な教育訓練を実施する。

8 販売先及び出荷団体との連携

- 販売は、JA〇〇〇〇の共販、産地直売所、特定の飲食店、インターネット販売を中心とする。
- JA 共販以外は、販売契約を交わし確実に販売できるアイテムを選択する。
- 各出荷団体との連携は綿密に行い、自社、GAP 農産物の知名度向上につなげる。
- 商品クレーム及び農場のルール違反への対応手順を定め記録する。

9 水質検査、土壌診断

- 栽培から出荷調製に至るまでの水源を把握し、水質検査が必要な場合は、少なくとも年に1回は

水質検査を実施する。(水道水は除く。公共用水などは管理組合で把握する情報を入手。)

- 少なくとも年に1回は土壌診断を行い、その結果に基づいて施肥管理計画を立てる。また、サンプリングの根拠を明確にしておく。

10 法令遵守

- 農産物生産、農場管理、農産物販売行為が、常に法令に関連していることを理解し、疑問点は法令を管轄している関係機関に確認し、法令違反とならないよう意識する。

【衛生品質管理方針】

1 農場管理

- 農産物取扱施設設備の保守管理と有害動物等の侵入、発生対策及び侵入対策を確実に実施する。
- 収穫、調製、出荷工程のリスク評価の実施と一般衛生管理手順を定め、従業員に徹底する。
- 異物混入、アレルギー、農産物交差汚染対策を実施する。
- 農産物の汚染や異物混入事故防止のため、農場へのルールを定め、農場への入場ルールを定め周知する。

2 作業員の衛生管理

- 衛生管理手順書に従い毎朝体調管理、清潔な服装、異物混入対策を徹底する。

3 衛生管理指針

- 衛生管理指針に従い実施し、従業員に教育する。
- 収穫や出荷調製に使用する「ハサミ」「手袋」「収穫コンテナ」は、使用の都度清掃し、他のものとは混在しないように保管場所を決める。
- 出荷運搬時の車両は、ホ口のあるトラックやバンタイプの車を使用する。無い場合はシートをかけ、直射日光、雨、異物などから守る。
- リスク評価に基づき、必要と判断する場合は残留農薬検査を実施する。サンプリングの根拠を明確にしておく。

【栽培管理】

1 品種

- JA 部会等で決められた品種を選定し、信頼のあるルートから入手し調達記録を残す。

2 栽培管理方法

- 指導機関から提示される資料に従い、地域環境に配慮しながら実施する。

3 栽培履歴の作成

- 収穫時までの栽培履歴を作成し、販売先等から求められた場合は、いつでも履歴を公表できるようにしておく。

4 病害虫防除と農薬の保管管理

- 食品安全、環境保全、労働安全に配慮した使用と保管の実施。
- 農薬の使用は、農薬使用計画、農薬管理手順書及び法令に従い適切に実施する。

5 土壌管理と肥料の保管管理

- 使用する肥料は、肥料登録のあるものとする。
- 有機質肥料については、リスク評価を行い、対策を実施し、素材の明確なものを使用する。
- 養分管理計画に基づき使用し、記録を残し栽培履歴に転記する。

更新年月日	更新者	承認年月日	承認者

更新内容	
------	--